
大海賊時代を変える漂流者

漂流者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大海賊時代を変える漂流者

【Zコード】

Z8086Y

【作者名】

漂流者

【あらすじ】

家で普通に暮らしていた主人公。だがある日冷蔵庫を開けたらグルグル模様の変なバナナを発見した。それを食べて何事も無かつたと思いきや、次の日起きたら海の中に居た。上は青空。周りには海、海、海。島が無い為そのまま漂流されてしまう。「これからどうすれば良いんだよおおおーー！」　b.y主人公

1 流れ着いた場所（前書き）

作者名については気にしないで下さい。

1 流れ着いた場所

カリカリ・・・ペラッ

ん? 誰だ? 僕は今、数学の勉強中だ。ちょっと待て。

（15分経過）

カリカリ・・・・・パタン。

ふう。宿題が終わつたから良いぞ?

俺は、渡部 蒼大。わたなべ あおひろ 中学三年だ。俺の両親は今両方とも出張中だから居ないけどな。料理とか家事は得意だから困る事は無い。金は置いてくれたし。家計も安定中。

で、今台所に居るのだが。これは・・・?

冷蔵庫に何故か買つていらないグルグル模様のバナナを発見。これって、今世界中で大ヒットしている海洋冒険の「ONE PIECE」にある“悪魔の実”だよな? 超似てるし。どうやって入れたんだ? まあ、それは良いとして後で食べてみれば良い。今はオムレツを作りたい。

ふう。できた。なんか変なメニューだな今日は。オムレツにヨーグルトに悪魔の実らしき物。誰から見ても変だと思われるな。特に一番最後のは。

「 いただきます。」

もぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐ。

あと残りはこの変なものの。悪魔の実はクソ不味いと聞いたが。
ガブツ・・・もぐもぐもぐ・・・「ゴクン！」

う・・・不味っ！何だこの味。どうにえれば良いんだよこれ本物じ
やねえの？じゃなかつたらなんだよこの果物。

いいや、明日のテストで寝ないよつこもつ寝よつ。

（翌日）

クー。クー。クー。

「う・・・鷗？なんで鷗なんだ？俺は東京都の練馬区に住んでるか
ら鷗は居ないと想つがな。・・・・・なんだよこれ夢？」

と思つた。てかそれを願つ。どうじよつか。

？叩く

？殴る

？海の中に顔を入れて息ができるか確認してみる。

？助けを呼ぶ。

？寝る

あ、？は死亡フラグだ。やめておひづ。？は意味が無いかもな。周
りは海のみ。よし？に・・・あ？あのマークってワンピースの
海軍のマークだよな？マジ？行こう・・・やあああ。流される
うひづひづ。

その方向だから良さナビ。マジでもの凄いスピードで流れれてるつ
うつー・ぶつかるつひー・・・・・

え!? ちょっと待つた!! あの船首は……まさか! ルフィのじいちやん? まさかー。そんな訳無い。

海兵「何事・・・ええ!?漂流者!-?おい!浮き輪!」

海賊一おつまみ!

八
子
十

あ 浮き輪
これは描まれて意味が
ガシツ

海兵「手を離すなよ。引くから。」

-OK

「海兵」なる。

どんどん軍艦に近づく。

海兵「よつとー」

海兵「大丈夫か？ほらタオル。」

「アーティスト」

ああ。これが夢小説とかに出て来る“トリップ”ってやつか。なん
で俺がこんなのに体験してるんだよ。まあ、テストが今日だから良
かつたけど。

ガ「なんじや？」

「あ、もしや。」

ガ「うん？」

「ルフイのじいちゃん？」

ガ「ルフイを知ってるのか！？」

「あ、まあ。」

海兵「“麦わら”のルフイですか？それくらい知っていますよ。億越
えルーキーなんですから。」

ガ「そうか。でお前さんは？」

「俺は渡部 蒼大。今から質問しても良いか？」

ガ「うん？いいぞ。」

「『』は何処だ？」

ガ「『』は海軍本部の近海じゃ。今帰るとこが『』。続ぎは着いた
らで良いかの？」

「分かつた。」

着いた場所が軍艦かよ。夢であつて欲しい。

あと、これを考えたら、あの実は本当かもな。

1 流れ着いた場所（後書き）

感想など待っています。

2 主人公設定

【名前】
渡部 蒼大

【性別】
男

【出身地】

東京都練馬区

【誕生日】

2月29日

【身長】

184cm

【部活】

水泳部

【能力】

自然系ウミウミの実。

何故か家にあつた悪魔の実を食べて能力者になつた。
これを食べてから海人間となつたが、カナヅチにはならなかつた。

【その他】

- ・自分で何かを作るのは得意。
- ・狙撃が得意。
- ・元の世界の技術はほとんど覚えていて造ることも可能。
- ・体質が他の人と違う。

主人公は海軍にも海賊にも政府にも革命軍にも入りません。

大体、革命軍 + 海軍 ÷ 2 = 主人公が行つて いる事。

主人公は大海賊時代を終わらせる事を目標にしてます。

2 主人公設定（後書き）

こんな感じの主人公。

3 事情聴取

「ある部屋」

？？「私はボガードと言つ。さつきの部隊の副官だ。」

「はあ。」

コンコンツ ガチャ。ゾロゾロ

・・・・・・・・・・・・・・

なんか海兵がゾロゾロ入つて来るんだけど・・・。
あ・・・巨人族だー！

ガ「ふむ。全員集まつたから初めていいぞ？」

初めて生で見たーーーでけーーー

ボ「・・・どうした？」

「あ、いや、なんでもないです。」

ボ「そうか。名前は？」

「渡部 蒼大」

ボ「渡部そ・・・？」

「蒼大」

ボ「変わった名前だな。」

「普通なんだけど。（違つ世界だもんなー。）」

ボ「何処の海出身だ?」

• • • • • • • • • • •

ガ「どうした？」バリバリ

「煎餅食いながら喋んじゃねえ。」

ガーデン悪いの！」

「悪かたな。今はちよことな。

ボー（機嫌が悪いのか）で、どんだ。

「何でいい？」

一応聞いてみる。

ボ「東の海・西の海・北の海・南の海・偉大なる航路の5つのうち
どれかだ。」

おまへがうそをつくんなよ！」

「何それ。東シナ海？大西洋？南シナ海？北極海？後、偉大なる航路つて何？」

ボ「貴様、ふざけてるのか?」

??「ちょっと待つて!」

セ「なんだ?日本研究班員。」

研「なんでその単語知ってるの?...!」

「」めん、「」めん。知ってるよ。でも、うーん。」

研「ええ!?スルー!...・・・後で聞きます。」

セ「分かつた。」

ボ「何処だ。」

「うーん。東の海?」

ボ「なぜ疑問系?」

「いいから次!」

ボ「・・・・年齢は?」

「14歳。」

ボ「何故漂流していた?」

「あ、ちょっと待った。さっきの質問やつぱり答えるよ。」

研「あ、はい。」

「血口紹介からくるよ。」

ボ「ああ。」

「俺は渡部 蒼大。此処とは違う世界から来ました！俺が住んでた所は日本。日本の東京都練馬区に住んでます。いつもは学校に通つてます。部活は水泳部。特技は狙撃と水泳と潜水？」

研「ええ？！日本から来たんですか！？」

「うん。だ・・・・・あ、あれって本物なの？」

研「え？」

「俺は昨日、冷蔵庫に悪魔の実らしき物があつてそれを食べて寝て起きたら今の状況だから。」

研「・・・・・嘘言つてしませんか？」

「俺、パソコンと携帯電話スマホと筆記用具とか持ってるぞ？」

ガラガラ。

不思議バツクからじょどん出でへる出でへる。

研「本物だあ。」

ボ「て」とは、渡部は異世界から来た。で良いんですか？」

ガ「そうなるの～。」ボリボリ

「・・・・・・・・・ふ。」

ボ「ふ？」

「ふえっくしー・・・・・ハラ。」

海兵「！？・・・ビックリしたー。」

「！」めん。風邪が治ってきてるんだじや。」

海兵「治つて来てるかよ。」

「ははは・・・・・まあ。笑えねえ。」

ボ「・・・・・日本について話してくれないか？」

「日本は47都道府県に分かれてる。あと、列島だから一応島国。先進国で治安は世界一。軍隊を持たないけど自衛隊がある。けど外国からは軍に見えてる。とか？」

研「ええー？治安は世界一なんですか？！」

「うん。そんな感じ。」

ボ「そうか。」

ガ「セソ、ゴクー！」こつを海にしたて……

「子供か！？後、入隊しねーから……」

ガ「なんでじー……」

「なんにも入らぬーよ！でも情報通だから。」

ガ「じゃあ、海軍が世話をするから情報くれよー。」

「OK.」

「……」

3 事情聴取（後書き）

次回は「」の続きです。まだ続きます。

4 能力発動

？？「おれはオーネグモ。その悪魔の実の能力は分かるのか？」

「ああ？」

ガ「意識してみい。」

「ああ。」

目を瞑る。悪魔の実の能力を考えてみる。

ガ「しつかし、おかしいと思わんか？」

オ「？」

ガ「漂流つて事は、海水に浸かつてゐるって事じやろ？なんでカナヅチではないんじや？」

セ「確かに。」

分かつたぞー海だ！よーし、空間に水があることを思い浮かべて・・・

オ「何！？」

目を開けると・・・空間に水が。どうやら海水じゃなくても水であれば良いいらしー。

モ「自然系か……。」
ロギア

オ「ただの自然系では無いぞこれは。」

モ「ああ。」

「何かは、分かつた。」

モ「なんだ?」

「自然系ウミウミの実。海人間だな。あー、俺動物系が良かつたー！ー！」

モ「良いじゃないのか?」

「まあ、多分体が海だから海水に浸かつても変わらないからだと思う。でも良いか！」

モ「?」

「俺、水泳部だったからさ。潜水も目開けてもこれで大丈夫だあ！よつしゃあー！」

ガ「ぶわっはっはっはー息も続くなー！」

「よつしゃあー！」

海兵「さつきと全然機嫌が違う……。」

海兵「まあ、良こんじゅねえの?」

海兵「なんでだよ。」

海兵「だって、俺ら海軍があの子の件話をやるからよー、機嫌が悪くて能力でもられたらどうするんだよ。」

海兵「あーーそつか!」

海兵「だろ?」

海兵「あ。」

ガ「ふむ、早速行くか!」

「・・・・・何處に。」

ガ「鍛錬場じゅせー。」

「・・・・・」

ガ「行く」明日こじてよ。今日は寝る。」

海兵「寝るのかよーー。」

「ニ・・・あ・・部屋どりだー・・・・・?」

モ「・・・付いて来い。」

「〇△。」

才「待て、俺も行く。」

「じゃあ、俺も。」

スト「・・・・・」

無言！？なんか喋れよ——！···あ、そうだこの人いつも無言だ···。

ガ「ぶわっはっはっは！行つて来い！」

あなたは行かないのか！！

モ「置ててくわ。」

「え？ こんなに居るから・・・・・剃か。」

モード

「階段！」？

モ「階段しかないだろ。」

全員「……………」

「魂が抜ける……………。」ガクツ

才一苦手か?

ニンニク

中華書局影印

説小治政の歴史

「はあ。」

これはもう諦めるしかないのか。

全員（（（（そんなんに嫌なのが・・・・・・・・・・・）））

4 能力発動（後書き）

階段が苦手な主人公。

作者は逆です。東京タワーの階段を上りきった事が一回あります！

それでは、それでは。

5 背負う

モル

才「モモンガ、どうした？」

いきなりしゃがむモモンガ。

モード負ってやる。ま、乗れ。

「ふえ？」

いきなりだつたから変な声が出てしまつたではないか……」のヤロウ！

モ「背中に乗れ。」

え？ それってつまり、俺をモモンガがおんぶするって事？ まさかー！

現実だつたああああああ！――！――！――！――！

「……」何固まつてゐる。まれ……」

「どう……」

「うわい……」

モ「ふひ。やつと乗つたか。あまないドーベルマン。」

モ「お汝こそ御用だ。」

「押すなよ。」

モ「中将りは階段を上つ始めます。」

モ「乗らなきからだ。言つたり避けるだらへ。」

「だつて……よ。」

モ「いこからそのまま背負われてゐ。」

「うう……」

「うん?」の髪くね?

「てか、髪長いな。」

モ「髪は大事にするもんだ。」

「切らなーのか?」

モ「別にこのままでも良い。」

「あーそ、う。・・・まだ？」

モ「少なくとも10分はな。」

あー、なんか眠くなつてきた・・・・・。

モ「・・・・・。蒼大？」

「ZZZZZZZZ」

オ「寝てるぞ。」

モ「寝てるのか。」

ドー「モモンガの肩を枕にして髪を布団代わりか？」

ダ「そうだな。暖かそうだ。」

モ「羨ましいと思つなら今度頼んだら良いだろ。」

ダ「髪が長くないから無理だ。」

モ「人獣型になれば良いだろ。」

ダ「そうか。」

モ「部屋に連れて行くか。」

ダ「モモンガの部屋で良いだろ。」

モ「いや、それは駄目だ。」

ドー「まあ、蒼大は大事にしないとな。」

モ「そうだな。」

スト「…………。」

ドー「なんか喋つたらどうだ。蒼大もそういつたてたや。」

スト「…………喋る事が無いから喋つていない。」

オ「…………もつと明るくなれよ。」

モ「一番地味では?」

オ「そうだな。」

スト「酷いな。」

オ「お前キャラ変えろ。」

スト「無理だ」

オ「あつや。」

モ「着いたか。」

オ「蒼大は俺らと同じ階なんだな。」

ガチャ

モ「蒼大の世話は中将以下が担当だ。」

オ「だからってな。同じくらいいの部屋だよな。」

ドー「だな。」

モ「手伝ってくれ。」

オ「ダルメシアンは足を持て。靴も脱がせておけ。」

ドー「ダルメシアン、お前意外と器用なんだな。」

ダ「うるせー。」

と言つて靴を脱がす。

モ「ここだな。同じ造りだな」

ガチャ

寝室を開けるモモンガ。

中将らは蒼大をベットに寝かせて布団を掛けた。そして、部屋から

出て各自の部屋に向かう。

ちなみに、この階の部屋は巨人族以外の中将のみしか居ない。だがガーブとつるは上の階に居る。この階の造りは、

資料室 休憩場所

空き部屋

カイゼルヒゲ オーネグモ ヤマカジ ストロベリ

|

上下階段

雑談・色々部屋

「一ミル ドーベルマン 蒼大 ダルメシアン

モモンガ

こうなつていてる。

蒼大は完璧に守られている。

ジョナサンは拒否している（と言つ設定）為造られていないです。

5 背負つ（後書き）

図が少しづれていますが、ぴったりくっつける事ができないので、ごめんなさい。

6 海賊の唄

中将らが蒼大の部屋から出てから2時間後。

「ん? ビー? オ、紙だ。」

えーと?

ここは蒼大の部屋だ。ここは自由に使うと良い。

中將一同

一人漫才つてつまんねー。てか、俺、漫才の才能ねえし。

なんか歌おうかな。あ、窓開いてる。

「うつひょー！…綺麗だなー！…」

海が綺麗。

ドーベルマン side

蒼大を寝かしてから2時間が経った。

「あいつまだ起きないのか？そろそろ起きてもいいと思つのだが。
あと、何でお前らが此処に集まる。」

モ「いいだろ？が。蒼大の部屋にも近いし。」

「そうだがな。」

ガラガラ。

すると窓の扉を開ける音が。此処は開けてるから隣だりつ。

オ「蒼大か？」

モ「そうだな。」

蒼「うつひょー！…綺麗だなー！…」

モ「完全に起きたな。」

オ「やつとか。」

蒼大、遅すぎだ。

ドーベルマン side out

蒼大 Side

「あ、でも大砲が邪魔だな。コレ。良い景色なのに。」

あーー！ビンクスの酒歌おつ！

「ヨホホホ～ヨホホホ～ ヨホホホ～ヨホホホ～」

あ、モモンガ達が隣に居るみたい。でも気にせずに歌つもんねーだ！

モ「ヨホホホ？」

「ヨホホホ～ヨホホホ～ ヨホホホ～ヨホホホ～」

オ「なんだそれ。」

「ビンクスの酒を届けにゆくよ 海風気まかせ波まかせ～」

ドー「ビンクス？」

カ「の酒？」

オ「皿こののか?」

モ「知らん。」

「潮の匂いひでタロも譲べ 空にや輪を描く鳥の囁くへ

オ「?/?」

「さよなら港 つむぎの里よ アンヒー湯か~船出の囁くへ

モ「しれって……。」

「金波銀波もじぶきに変えて おれ達やゆくぞ 海の限づへ

なんか俺の声、島に響いてる気がする。

海兵「これって、蒼大の?」

海兵「それしかないだろ。」

「ビンクスの酒を 届けにゆくよ

ドー「知ってるア。海賊の唄だ。」

オ「はあ?そんな訳……。」

「我ら海賊 海割つてく~

オ「……。」

「ドー」「だら?」

「波を枕に ねぐらは船よ 帆に旗に蹴立てるはドクロ」

モ「それにしても何故、この唄を?」

「風が来たぞ 千里の空に」

「ドー」「わあな。」

「波がおどるよドリーム鳴らせー」

カ「あいつ、海軍側だろ?」

「おぐびょつ風に吹かれちや 最後 明日の、朝日ないじやなし~」

モ「蒼アシツ大の事は、」

「ヨホホホ~ ヨホホホ~ ヨホホホ~ ヨホホホ~」

モ「よく分からない。」

「ヨホホホ~ ヨホホホ~ ヨホホホ~ ヨホホホ~」

ドー「まあ、確かに。」

「ビンクスの酒を呑けこやくよ 今日か明日かと窓の夢~」

オ「例えば、」

「手を振る影にもう会えないよ 何をよく明日も月夜～」

オ「階段が苦手とか。」

「ビンクスの酒を届けにやべーでンドーー喉お～船出の唄～」

モ「遠慮するとか。」

「どうせ誰でもいつかはホネよ 果てなし abort 笑い話～」

ヅー「意味分からぬ言葉言つたり、」

「ヨホホホ～ヨホホホ～ ヨホホホ～ヨホホホ～」

オ「いきなり大声だすし。」

「ヨホホホ～ヨホホホ～ ヨホホホ～ヨホホホ～。・・・ふう。しかし、」

モ「ん？」

「これ、ここで酔つても良いのか？」（汗）

ヅー「・・・・・。」

「此處、海軍本部じゃねえか・・・・・。」（汗）

オ「やつと、氣づいたか。」

「やべー。でも良いか。」

モ「おこー・びついたー。」

ん?

オ「良くねえー。」

「つかねーーーなんだよー・びつくりしたー。」

オ「・・・・すまん・。」

「こやー、」

うん、大体、海軍本部で歌うのが悪いんだよ。^{ルリ}でも、気にしないーー！
俺、ある意味問題児かもな。

6 海賊の唄（後書き）

海軍本部で海賊の唄を歌つひやいました^ ^

7 新たな能力発見

「あ、そういうえば今は原作の何処ら辺かな？でも一億超えてるってことは……」

コンコンッ

「どうぞ。」

ガチャ

「ルフィイ達がアラバスタから出たつて事で、エースにも会ったのか。

モ「・・・・麦わら？」

「確か、次は・・・・えーと・・・。」

モ「ルルカ島だ。」

「違うよ、ファイアーワークスだよ。・・・・・つて、誰・・・あ。さつきはどうも。」

オ「ファイアーワークス？」

「花火が有名な島。」

ドー「麦わらの情報が結構あるみたいだな。」

「まあ、大丈夫だよ。」

「ドー「何故だ。」

「え? だつて・・・・次の次の次の次の次の次に・・・」

オ「何回言つた?」

スト「六回」

「居たの! ?」

オ「居ても存在感無いからな。」

スト「みさん酷いですよ。」

「まあ、ナバロンに着くからさ。」

モ「でもな、ナバロンって。」

オ「海賊があそこに行くか?」

「上から落ちてくるから無理でしょ」

「ドー「上からつて・・・・。」

突つ込むな! ! それ以上は教えない! !

「まあ、大丈夫だよ。」

モ「まあ、良い。蒼大、日用品はどこにあるんだ?」

「あ、大丈夫だよ。」

モ「そうか。」

「うん。届いた。」

モ「は?」

ズズー—————ん

いつの間にか部屋にはダンボールだらけ。

モ「いつの間に・・・・。」

オ「三次元は「いや、多分それ違うよ。」??.」

「此処に来たからじゃない?」

オ「知らん。」

「だよな。・・・・。」

スト「無口になるな。」

「お前だけには言われたくない台詞言われた———.」

スト「蒼大、お前の事をどう見てる。」

「えー、無口で地味で何故か笑顔の人?」

ドー「まあ、確かに。」

オ「俺もそんな感じだ。」

モ「普通に考へてもそんな感じだな。」

カ「うんうん。」

スト「そんなに・・・・・。」

オ「やつぱり、キャラ変えろー。」

スト「無理です。部下が引きます。」

「ははは・・・・でも少し彼らに喋れば良いのに。」

スト「・・・・・。」

「今喋れよーー俺らしか居ないのにーー」

スト「いや、居る。」

『クーーー！』

「ニース・クーー本当に居るんだなーー！」

てか、カモメが居るだけで無口になるか?

『クー！（タダで良いよー）』

「え？マジー？」

『クー？（言葉解るの？）』

「うん。今気づいたよ。」

『クーー（あ、これ。）』

「Thats...!..

『クーー（これが仕事だからね。）』

「あ、そうだったね。」

『クー（うさ。）』

「あ、鮓（さん）？」

『クー？（鮓（さん）？）』

「うさ。ほいっ！..

パクッ

『クー！（美味しい！）』

「えへへつ。俺の故郷に居る魚の一部だよ。」

『ク？（明日も来て良い？）』

『ケヂ――――――――! (じやあ、また明日!)』 バサツ

海兵達「――――――会話してたああああああああああああ――――――」

中華書局影印
新編全蜀王集

後者無言！？

海兵道

なれか解て葉にた」(江)

清異錄

「てか、なんで居るの？」

海兵「あ、唄聴いて確かめる為に。」

一
あ
俺
だ
よ
」

「こむら」

新たな能力発見。

(今、ニュース・クーと喋つてたよな。)

(三次元の能力じゃね?)

(研究員に聞いてみるか?)

(そうだな。)

(何だ今は。)

(知らん。)

(あいつも分からないつて顔してるぞ。)

(しばらく置いておくか。)

(それしかないだろ。)

7 新たな能力発見（後書き）

最後、ちょっと書き方変えてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8086y/>

大海賊時代を変える漂流者

2011年11月27日12時55分発行